



高山市

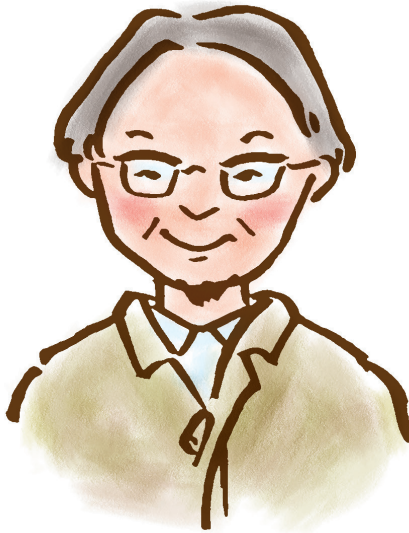
飛騨漆の森プロジェクト 理事長
ほのぶ まさひろ
本母 雅博さん

飛騨匠のDNAをひきつぐ

ものづくり文化を守るためにも

再生させた漆の森を

未来へ循環させていきたいな



漆の森を未来へ

高山市に生まれ育った本母雅博さんは、高校卒業後に就職した家具製造会社「飛騨産業」で、技術や商品の開発に長年携わったのち、取締役のひとりとして改革や改善を進めました。

こうして飛騨の木工に関わる中で、さまざまなものづくりの原料として使われる、地元産の漆が減少していることに直面しました。

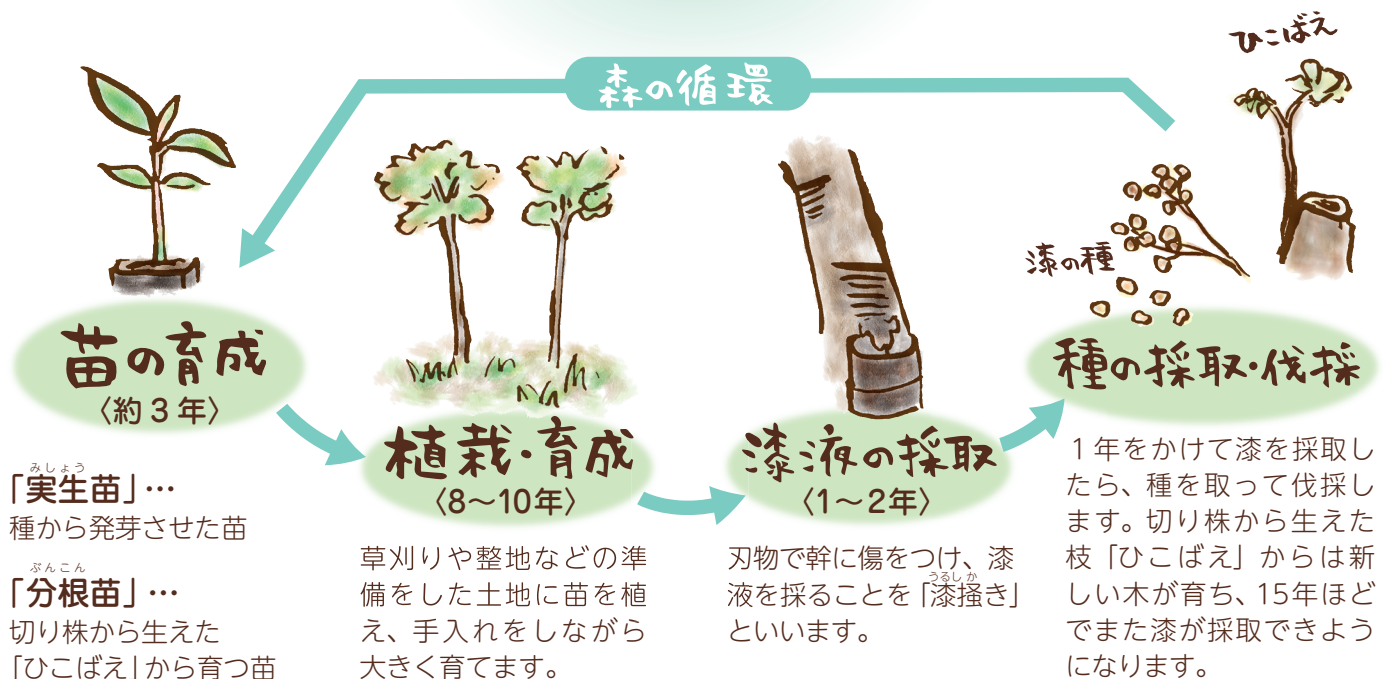
そこで、これからは漆を利用していくために「漆の森プロジェクト」を立ち上げ、さまざまな業種の仲間と協力しながら漆を育て始めました。

伝統文化を守ることはもちろん、新しいことにも挑戦しようという思いを持って活動しています。

飛騨漆の森プロジェクト

愛称は「ひだうるP」

飛騨のものづくりを未来まで支えていくため
持続的に森を育てる活動です





祭屋台

ごうか けんらん
豪華絢爛な

高山祭の屋台にも
漆が使われています。



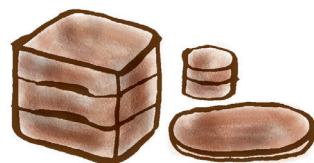
漆の芽の天ぷら

漆の芽は食べられます。
タラの芽によく似た味。



漆ろうそく

漆の実から採れる
ろうから作られます。



しゅんけい

飛騨春慶

木目を活かして漆を塗る
飛騨の伝統的工芸品



飛騨の家具

飛騨は家具作りがさかん。
漆で仕上げる
製品もあります。

飛騨匠文化と漆

奈良時代から、高い技術を持つ飛騨の職人は都へ派遣されていました。この「飛騨匠」の精神は、現在もこの地域のものづくり文化に受け継がれています。

しかし近年、高山祭の屋台や伝統的工芸品「飛騨春慶」などに欠かせない原料の漆が、地元で採れなくなり、輸入に頼らなければならなくなってきました。

漆の森を作ろう

原料が採れない場所では、技術が育たず伝統は消えてしまう。そんな危機感から始まったのが「飛騨漆の森プロジェクト」です。

ほかの産地ではどのように漆を育てているかを調べ

たところ、身近な里山で育つことがわかりました。実際に挑戦を始めると、使っていない山や畑を提供してくれる人も現れました。

プロジェクトを始めて2年目にはNPO法人を作り、漆を共通の財産として公平に使える仕組みを作りました。山で働く人や職人などが集まり、漆の森を守っています。

活動する中では、うまくいかないこともありましたが、しかし、試行錯誤を重ねたことで知識が増え、「こういう土地だから、こう育てよう」と対応できるようになりました。

「どんな経験も財産になる」という前向きな思いを持って、漆の持続的な生産を目指しています。

いま、
伝えたいこと



(文・絵
高山市)
大森貴絵

漆のことを若い人たちに伝えるときは、実際に現場へ来て、どうやって漆が育つのかを知ってもらいたいなと思っとるよ。**体験は財産！** ぜひ漆の森を見に来てほしいな。
伝統的な漆塗りを大切にしつつ、今までにない技術を開発するのも面白いんじゃないかな。「温故知新」の精神で、伝統文化をそのまま引き継ぐだけでなく、新しいことにもチャレンジしたいと思っとるよ。